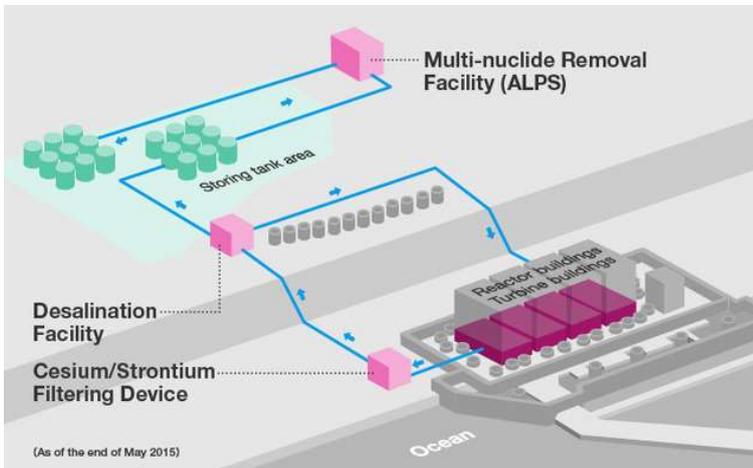


## トリチウム水の連続監視

本廃炉公募テーマは、受付を終了しています。

### 募集内容



下記の課題に対する

- ・調査/ベンチマーク/ケーススタディー
- ・技術提案

を募集します。ご提案は、下記ボタンよりご投稿ください。

【課題・現在の取り組み】(2017.10.24 更新)

福島第一原子力発電所構内において、β線・γ線モニタを設置し、排水等の監視を行っているが、トリチウムは現状のモニタにおいて特性上(最大エネルギーが弱いβ線のみを放出する核種)、測定できない状況にある。発電所内における汚染状況等、周辺監視強化のため、トリチウム水の連続監視について検討中。

なお貯蔵タンク内のトリチウム水濃度は300,000～3,300,000Bq/L(2016年3月時点半減期補正後)、トリチウムの告示濃度限度は60,000Bq/L、トリチウム水排水の参考となり得るサブドレン水排水の運用目標は1,500Bq/Lである。運用目標値以下の検知が可能な連続監視モニタ(100Bq/L程度を30分程度で測定可能なレベル)を検討する。

【関連情報、課題の背景など】

福島第一原子力発電所周辺の放射性物質の分析結果

<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>

【知見入手希望時期、関連マイルストーン】(2017.04.11 更新)

2017年度下期

(・2016年4月政府トリチウムタスクフォースにて、これまでに絞り込んだ地層注入、海洋放出、水蒸気放出、水素放出、地下埋設の選択肢の評価を実施。

・2016年度下期に政府による多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会を開始。)